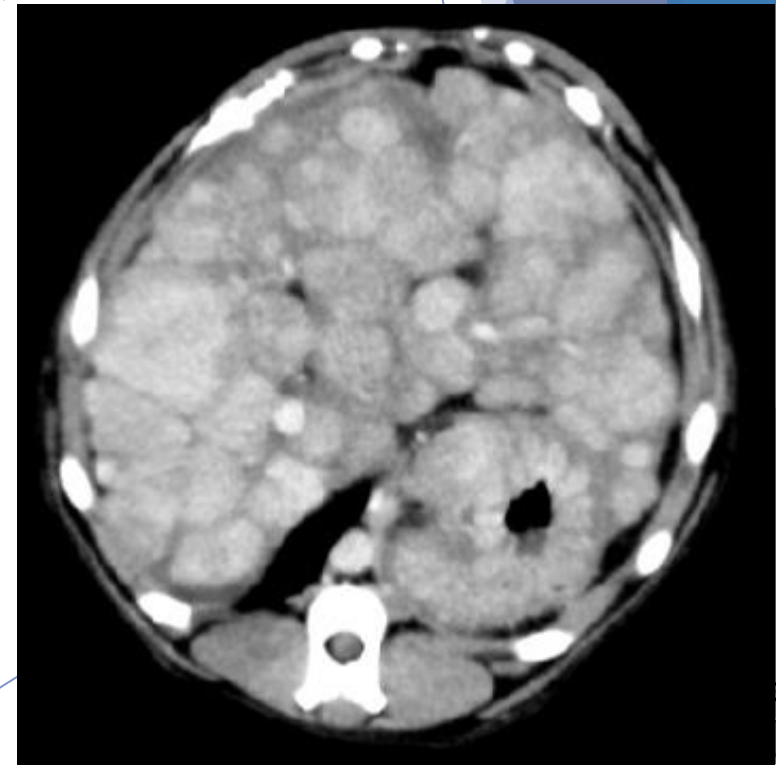


①肝硬変（犬）

- ▶ プーリー、9歳、♂
- ▶ 症状：元気減退、食欲不振、腹水貯留
- ▶ 経過
 - ・2013年 他院にて腹部超音波検査、FNAを実施し肝硬変と診断
 - ・2017年 腹水の貯留を認め始めたため、幹細胞治療を希望し当院を受診
 - ・当院初診時（第1病日）に腹部超音波検査にて軽度腹水と肝実質に多結節性病変を伴う肝腫大を認める
 - ・CT検査にて慢性肝炎を伴う肝硬変を疑う
 - ・第13病日より他家ADSC投与開始（IV投与）
 - ・第110病日までに計11回の家ADSC投与
 - ・第113病日に死亡

無麻酔CT
ヘリカル(造影：動静脈相)
腹部(肝臓)



①肝硬変（犬）

病日	4年前 他院にて	1病日 当院初診	13 病日	20 病日	27 病日	36 病日	46 病日	57 病日	69 病日	84 病日	98 病日	105 病日	110 病日
幹細胞投与			初回	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目	11回目
ALB (g/dL)	4.1	2.9	2.5	2.6	2.8	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.1	2.2	
GOT (U/L)	64	321	167	180	400	637	637	436	520	338	300	214	
GPT (U/L)	462	1314	713	606	918	1263	1202	1353	1243	915	670	260	
ALP (IU/L)	217	5912	3242	2353	5308	5529	6602	6335	4778	3360	3011	3068	
T.BIL (mg/dL)	0.1	1.1	1.4	2.2	2.0	1.2	1.2	1.1	0.9	1.5		3.4	
CRP (mg/dL)		0.9	1.0	1.0	2.2	1.7	1.7	<0.3	0.7	0.6	2.2	0.8	
腹水	－	＋	＋＋	＋＋	＋＋＋	＋	－	－	－	－	－	＋＋	
食欲	＋	＋	±	－	±	＋	＋	－	＋	±	＋	－	－
その他	FNA 肝硬変と診断	CT検査							リンパ節腫大 急性腸炎		急性腸炎	貧血 輸血実施	

①肝硬変（犬）

▶ 獣医師コメント

- ・他家ADSC 3回投与後、血液検査での肝数値や画像検査上での肝臓構造の明らか変化は認められなかったが、腹水は消失し、食欲向上、一般状態の改善が認められた

- ・他家幹細胞の投与間隔が2週間以上あいた際に一般状態が悪化する傾向を感じた

- ・他家幹細胞投与後2回ほど急性胃腸炎がみられることがあった

⇒幹細胞投与との関係は不明（血液検査で脾臓パネルの上昇があったが画像検査上では目立った所見なし）

⇒通院のための車移動によるストレス？（もともと車移動が苦手な患者だったため、ストレスを感じやすかったかもしれない）

- ・インフォームドで提案する際にADSCについて慎重に説明を実施した

②肝疾患（肝酵素上昇）（犬）

- ▶ ミニチュアシュナウザー、11歳、♀
- ▶ 主訴：食欲なし、元気なし、嘔吐、寝れない、お腹に力を入れていきむ
- ▶ 臨床症状：腹部膨満、呼吸促拍、黄疸、肝浮腫
- ▶ 治療経過：他家ADSCを2回IV投与

	2017/3/30	2017/4/8	2017/4/13	2017/4/15	2017/4/21	2017/7/19
AST(U/L)	135	他家ADSC① 7.5×10 ⁶ cells	124	他家ADSC② 7.5×10 ⁶ cells	21	
ALT(U/L)	over 2000		over 2000		270	
QOL		32		34		62

- ▶ 併用治療：ミノファージェンシー、ウルソ、療法食k/d etc.
- ▶ 1回目投与後の時点では、生化学検査に数値の改善はみられなかったが、全体的な症状として良好な様子がみられた
- ▶ 幹細胞投与前1ヶ月間の一般的な内科治療で低下がみられなかった肝数値が、2回目投与1週間後の時点で劇的な低下を示した
- ▶ QOLも2回目投与の3ヶ月の時点で大きく改善している（QOL値：32→62）

③肝疾患（肝酵素上昇）（犬）

- ▶ ワイヤーフォックステリア、13歳、♀
- ▶ 主訴：食欲がない
- ▶ 臨床症状：食欲不振、黄疸
- ▶ 治療経過：他家ADSCを2回IV投与

	2016/9/3	2016/9/10	2016/10/5
ALT(U/L)	over 2000	279	173
T-Bil(mg/dl)	5.6	1.1	0.4
QOL	29	34	
ADSC(cells)	8.1×10^6	4.69×10^6	

- ▶ 併用治療：強肝剤、複合ビタミン剤、フェノバルビタール、利尿剤、マイナートランキライザージアゼパム、ピモベンダン、副腎皮質ホルモン
- ▶ 投与から1か月後の時点でALT、T-Bilの低下がみとめられた
- ▶ 2017/4/7：神経系発作による自発呼吸の停止により死亡
- ▶ 肝疾患①②より、一般的な治療で効果が得られなかった場合、最終手段としてADSC投与は効果が期待できる